

■高田好胤 法相宗の僧。薬師寺元管長。分かりやすい法話で知られ、百万巻写経勸進により、薬師寺の再生を果たした。

たかだこういん

護憲三派圧勝1924＝ 甲子園球場が完成した年、大阪市で、証券会社に勤務する高田貞明の子に生まれ、好一と名付けられる。

満州事変・ 1931＝ 7歳：

国際連盟脱退1933＝ 9歳：

帝人疑獄事件1934＝10歳：父が肺結核で死去、姉とともに、母フジの実家でその弟橋本聖準が住職を務める東大寺龍藏院に移り、

芥川直木賞始1935＝11歳：聖準と親しい東大寺の僧の世話で、法相宗大本山薬師寺の橋本凝胤に引き取られ、得度し好胤と名乗る。以後、南都仏教の伝統を受け継ぐ菜食不犯の峻厳な傑僧で、“20世紀最後の怪僧”“昭和の怪僧”の異名を持つ凝胤に、僧侶の心得一切を叩き込まれ、多くの文言が身に付き、のちの法話に生かされることになる。

日中戦争始・ 1937＝13歳：

あらゆることで怒られる怖い師であったが、一方で、遠足の前日に、たまたま賄いの女性が休んだ時、自ら鉢巻をして弁当を作ってくれるような愛情も持っていたという。甲子園球場と同年が売りの野球好きで、奈良県立郡山中学校時代には、師に内緒で野球部に入ったが、やがて知られて大目玉、

第二次大戦始1939＝15歳：師凝胤が薬師寺住職になり、以後、薬師寺復興を意識しながら、後継になる弟子を養育、

日米開戦・ 1941＝17歳：郡山中学校を4年で修了し、京都の龍谷大学予科に入学、2年先輩の後の融通念仏宗管長倍藏良舜と親交、

・ ・ ・ ・ ・ 1942＝18歳：学徒動員で、千葉県四街道の陸軍野戦砲学校に召集され、

敗戦・ ・ ・ 1945＝21歳：敗戦で除隊。龍谷大学文学部に復学し仏教学科に進む。師凝胤と昵懇で、国文学や史学にも造詣の深い仏教学の大学者深浦正文に師事、唯識思想を分かりやすく説明する手法を身につけ、

新憲法公布・ 1946＝22歳：龍谷大学を卒業。和辻哲郎のヒット作「古寺巡礼」の改版が出たこともあって、来訪者が増え始め、

極東裁判決・ 1948＝24歳：法隆寺金堂が炎上したのを契機に文化財保護法が制定された年、法相宗の登竜門たる堅義加行を終え、

三大事件・ 1949＝25歳：創建時の建物は東塔のみで荒れるに任せ、さらにGHQによる農地改革で田畑を失った*薬師寺の副住職に就任すると、訪れる人たちに、師凝胤が全くしなかった寺案内をするとともに、法話をするようになり、

野球の実況中継を聞いていた時、師凝胤に‘そんなに面白いが’と問われ、大阪球場に連れて行き、以後、薬師寺でも、遠慮なく野球の話ができるようになったという。

独立回復・ 1951＝27歳：{週刊朝日}の徳川夢声が聞き手の評判の連載{問答無用}に取り上げられた師凝胤が一躍有名になった。この間、森村学園修学旅行生として好胤の話を聞き、専攻科に進むと、文通を始めた田中稚子と親しくなり、上京の都度会ううち、結婚を考えるようになる。肉食妻帯が廃止された明治維新後も、薬師寺では肉食妻帯しないことが守られてきたが、師凝胤に許され、

自衛隊発足・ 1954＝30歳：結婚、

55年体制始・ 1955＝31歳：戦後復興も進み、経済成長も始まったこの頃から、とくに、古都奈良に中学や高校の修学旅行に生徒たちが姿を見せるようになると、修学旅行生の案内に明け暮れ、ユーモアたっぷりで分かりやすい法話は“青空法話”とも呼ばれて評判を呼び、“話の面白いお坊さん”“究極の語りのエンタティナー”とも呼ばれる。

国連加盟・ 1956＝32歳：女子が誕生、師凝胤が都耶子と名付けてくれるが、戒律を破ったとされ、さまざまな圧力に耐えきれず、

安保闘争・ 1960＝36歳：

タイタイ病始・ 1961＝37歳：超大型の第二室戸台風の到来にも三重塔は耐え忍び、古代の工人たちの知恵の深さに感心、

東京リベック 1964＝40歳：妻は娘を連れ上京、

いざなぎ景気1966＝42歳：離婚に至る。18年もの間の長きにわたって、仏法の種をまくことが自分の使命’であると考え、修学旅行の生徒達への法話に力を入れ、その法話を聞いた生徒は、270万人以上にものぼるという。法話は京の三越劇場などでも行われ、また、テレビの定時番組にも「出るようになる。

美濃部都知事1967＝43歳：*師凝胤を継いで、薬師寺住職になると、金堂の再建を発願するが、必要な資金は約10億円で、檀家組織を持たない薬師寺には負担できず、寄進しようとする企業の申し出があるも受け入れるわけにはいかないと、全国の篤志の人々から一人1000円の納経料を集めるという前代未聞の百万巻の写経勸進を行い、

霞ヶ関ビル・ 1968＝44歳：第二の師深浦正文が死去。スタート。募財のため、以後、全国800以上の市町村で8000回におよぶ講演、

全共闘ビーク 1969＝45歳：ソ連で日本の仏像を展示することになり、訪ソ。「心〜いかに生きたらいいか」がベストセラーになり、

大阪万博・ 1970＝46歳：建物の再建には法隆寺の大修理で経験を重ねた宮大工棟梁西岡常一を迎え、千年先のことで考え、材木は台湾の檜、杉を用いることになった。

トルショック・ 1971＝47歳：書籍出版も好調で、復興事業に着手。釈尊が生まれた地インドに旅行、以後、1、2年ごとに訪問印。

石油ショック 1973＝49歳：「色即是色 物で榮えて心で滅びぬために」など、次々出版。

クアランゴール事件1975＝51歳：念願の100万巻が達成され、

田中角栄逮捕1976＝52歳：ニューヨーク郊外に建立された禅堂の落慶法要に招待された際、現地邦人から、ヤンキース戦のチケットを貰い満喫。*金堂の再建がなった。その後も写経勸進は進んだことから、強い世論の反対のなか、小説家でフランス文化相だったアンドレ・マルローの賛意を背景に、西塔の再建に着手、

成田衝突・ 1978＝54歳：アメリカの仏教会に招かれ講演した日が、たまたまジャパンデーで、アナハイムのエンゼルスとヤンキース戦の始球式に登場、その時の野球帽が自坊法光院に飾ってあったという。師凝胤が死去した際、詰めかけた新聞記者の‘故人はどんな人’の問いに、‘恐い人でした’と答えている。

・ ・ ・ ・ ・ 1981＝57歳：西塔も復興。その間、西岡の意見、真情に動かされて、

中曽根内閣・ 1982＝58歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1984＝60歳：中門、回廊などを次々と再建した。

竹下内閣・ 1987＝63歳：

昭和天皇没・ 1989＝65歳：ついに祇園精舎も訪れる。

55年体制終・ 1993＝69歳：

自社さ連立・ 1994＝70歳：「心のことば 好胤詞花集」と、この間も出版し続け、

・ ・ ・ ・ ・ 1996＝72歳：薬師寺で法話中に脑梗塞の症状が現れて一線を離れ、

金融破綻・ 1997＝73歳：写経勸進は600万巻にのぼり、現在も薬師寺の大きな柱の一つとなっている。

・ ・ ・ ・ ・ 1998＝74歳：胆石の悪化を併発させて胆嚢癌になり、かつての妻と娘が看病するうち、二度目の婚姻届を出して復縁し、僧侶が世間の榮譽を受けるべきではないと、叙勲や顕彰をすべて辞退してきたが、母校龍谷大学の校友会が毎年社会に尽くした卒業生に贈っている龍谷賞はありがたく戴き、直後に、没した。